
ゴリラ・ザ・フィクション

サダコレ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゴリラ・ザ・フィクション

【Nコード】

N9469F

【作者名】

サダコレ

【あらすじ】

ゴリラに立ち向かう戦士のおはなしおはなしスカシギャグになるのかな？

(前書き)

これはフィクションです。でも願望なのかな？ あんげに行く

あれは何年前だったか……。僕がまだ5歳の時、おばあちゃんの家近くの公園で、友達とかくれんぼをしている時だった。僕はドラム缶が3つ並んである所の後ろに隠れたんだ。うまく隠れすぎたのか、1時間近く経つが誰も来ない。すると後ろで物音がした。……ゴリラがいました。ゴリラは僕を睨み付け、ウホウホ言いました。やばい、やばすぎる。しょんべんしたいし。仕方ないっ、

「助けて、おばあちゃんっ！」

はい、おばあちゃん普通に登場。

おばあちゃんはいきなりゴリラを殴りました。ゴリラに83のダメージ。

ゴリラはキレました。ゴリラはおばあちゃんを蹴りました。おばあちゃん脱糞。これは凄い闘いだ！二人共戦闘民族なのかな？

しかしいきなりゴリラが焦ってきたようだ。

僕は思いました。

（おばあちゃんは強すぎる！）

深い意味はない。笑いの要素もない。

おばあちゃんは言いました。

「サダコレくん、おばあちゃんがゴリラを引き付けるから、はやく逃げなさい！」

僕

「やだよー！おばあちゃんを置いて一人でなんてっ！」でも僕は逃げることにした。パンツ丸出しで。早くにげてゲームボーイしなくちゃ。

ゴリラはそれを察知したのか、僕を襲おうとした。

…でも逃げれた。

その夜おばあちゃんがなかなか帰ってこなくて、お母さんに聞かれた。

「サダコレ、宿題はすんだの？」

僕

「うんっ!!」

次の朝、僕はおばあちゃんが気になり、

昨日の公園におばあちゃんを探しに行った。

おばあちゃんがいた。

終わり

(後書き)

まあまあの強さは罪なんだ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9469f/>

ゴリラ・ザ・フィクション

2010年10月27日02時13分発行